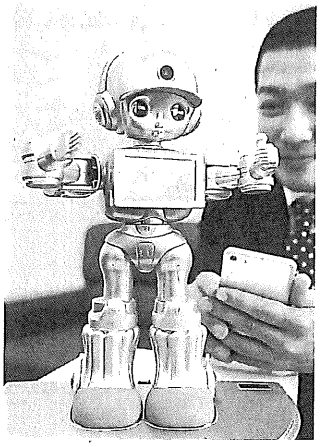
AIロボ 外国語で案内

東京の企業が利用実験

「春節」に函館、新千歳で

【函館】コンサルタント業の「フランチャイズアドバンテージ」（東京）は、外国語で接客できるロボットの利用実験を、中華圏の旧正月「春節」の16日から6日間、函館市内の観光施設など5カ所と新千歳空港で行う。人工知能（AI）の技術を生かし、中国人客などと対話させる。客の反応を踏まえて4月以降、本格販売する方針だ。



函館などの観光拠点で導入実験が行われるAIロボット「コロン」

同社は、チェーン展開する小売店やホテルなどへのコンサルタント業務が本業。人手不足や増加する外国人客の対応に苦慮している取引先の現状を聞いて、中国広東省深圳市のロボット関連企業から技術提供を受け、昨年5月にロボット「コロン」を完成させた。

高さ約30センチの人型。胸の部分には、タッチパネルの画面が取り付けられ、絵や文字を表示する。操作はスマートフォンで行い、中国語と英語、日本語の3言語に対応している。函館市内では函館空港と函館山ロープウェイ、五稜郭タワー、金森赤レンガ倉庫、観光ホテルに無償で配置し、外国人との対話の課題を探る。

ホテルのフロントでは従業員の操作や客の質問に応じて、チェックイン時の書類の記入方法や翌日の朝食時間を音声案内することも可能。音楽に合わせてダンスもできる。田嶋雅美社長＝札幌市出身＝は「地方では人口減が進んでおり、外国語を話すロボットの需要は高まっていく。実験を踏まえ全国へ販路を広げたい」と話す。

化粧品売り場でお目当てのブランドを探す外国人観光客ら＝1月、大丸札幌店1階

に特設カウンターを設ける。観光庁によると、米軍の「高高度防衛ミサイル（THAA

当は「日本人と同じように、売り場の椅子に座って肌の診断をしてもらい、安心して商品を買いたいという要望が多い」。日本ならではの細やかな接客も、中国客の再訪を促す魅力のようだ。

の増益となった。車両販売台数は国内、海外とも減少したが、産業用エンジンなどが伸びた。

売上高は8・3%増の1兆4996億4千万円、最終的な利益を示す純利益は

海道（苫小牧）を拠点に古いエンジンを整備・修理するアフターサービス事業も好調。瀬戸貢一常務執行役員は記者会見で「国内では新車販売よりも整備で稼ぐ構図になっている」と述べた。

メグミルク 営業減益に

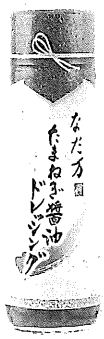
乳業大手の雪印メグミルク（東京）が7日発表した2017年4～12月期連結決算は、売上高が前年同期比1・1%増の4546億9100万円だった。消費者の健康志向を背景に、機能性ヨーグルト「ガセリ菌SP株」がよく売れた。

乳製品分野ではお酒を自宅で楽しむ「家飲み」需要に支えられ、チーズの販売

朝採り＋ぷらす

■タマネギ入りドレッシング

なだ万（東京）は、「たまねぎ醤油（しょうゆ）ドレッシング」＝写真＝を発売した。同社通販サイトや、百貨店などにある店舗「なだ万厨房（ちゅうぼう）」で購入できる。しょうゆやオリーブをベースに、すりおろしたタマネギを加えた。高級料亭の味を家庭で手軽に楽しめるよう、約1年間かけて開発した。180ミリリットル瓶入りで、希望小売価格は540円。問い合わせは、通話無料のお客様相談室☎0120・557842へ。



■肌の弾力保つクリーム

コーセーは美容クリーム「雪肌精　MYV（みやび）　プロテクトデイ　クリーム」＝写真＝を16日に発売する。ハトムギを発酵させて抽出した成分などを配合。外気や紫外線にさらされてバランスを崩しやすい日中の肌を守り、弾力や張りを保つ。30グラム入り。参考小売価格は8640円。問い合わせは通話無料のお客様相談室☎0120・526311へ。

■塩分控えめのごま塩

浜乙女（名古屋市）は、塩分を従来品より30%減らしたふりかけ「塩分控えめ　だしごましお」＝写真＝を発売した。昆布とかつお節の粉末だしを混ぜ、まろやかな味に仕上げた。米飯だけでなく、とんかつなどの料理にかける調味料としても使える。50グラム入りで、参考価格は118円。問い合わせは通話無料のお客様相談室☎0120・147178へ。

地域面から

■「今宵八雲」の新酒発売

【八雲】渡島管内八雲町の酒販店「上野商店」は、八雲産の米とわき水を使った日本酒「今宵（こよい）八雲」の新酒＝写真＝を発売した。

「雪の茅舎（ぼうしゃ）」の銘柄で知られる秋田県由利本荘市の斎弥（さいや）酒造店に製造を委託し、八雲の地酒として販売を始めて今年で15年目。八雲で昨秋収穫された「ほしのゆめ」と、同町山越地区で採取したわき水を蔵元に輸送し、専用タンクで醸造した。

醸造アルコールを加えず、精米歩合55%まで磨いた純米吟醸酒。瓶詰めの際に熱処理をしない生酒で、上品な香りを楽しめるという。上野商店の大和清人さん(67)は「すっきりとコクのある飲み口がファンに愛され、毎年秋